

2025年2月20日

賃貸住宅は 単に“ペット OK”ではなく、共生型物件にニーズ
『賃貸住宅におけるペット飼育に関する意識調査』を実施
～ 2月22日「猫の日」を前に、入居者のインサイトが判明 ～

パナソニック ホームズ株式会社の「くらし研究室」は、2024年12月に、首都圏(1都3県)の賃貸住宅に住む犬・猫の飼育者・飼育意向者を対象に、『賃貸住宅におけるペット飼育に関する意識調査』を実施しました。

近年、ペット飼育者は増加傾向にあり、2024年上期におけるペット保険^{※1}の新規契約数は11.7万件(前年同期比6%増)となっています^{※2}。こうした背景を受け、当社は今回、賃貸住宅でのペット飼育の実態やニーズを把握することを目的として調査を実施しました。結果、ペット飼育者は、単に飼育可能な賃貸物件ではなく、家族であるペットと安心して豊かに暮らせる設備・仕様・サービスを備えた「ペット共生型賃貸」を求めていることがわかりました。

■「ペット共生型賃貸」とは

当社では、ペットと住人の共生を前提とした設備・仕様・サービスを備えた賃貸物件を「ペット共生型賃貸」とし、単に飼育が認められている賃貸物件を「ペット可賃貸」としています。

■結果サマリー

①飼育意向者の62.8%が、ペット飼育禁止を理由に賃貸住宅での飼育を断念

②ペットとの暮らしに求められることは、

「外出時の不安を減らすサービス」、「ペットに適したインテリア(床、壁等)やニオイ対策」

✓飼育者・飼育意向者の40.0%以上が「心苦しい」、「健康・安全面」を理由に、

ペットを残して外出することが困る・不安であると回答。

✓飼育者の95.0%が「ペットを飼えていること」に満足している一方、

うち43.3%は「飼う環境」に不満を感じていると回答。

✓「飼う環境」に対する不満の理由は、「ペットに配慮したインテリア(床、壁等)になっていない」(42.0%)が最も多く、次いで「ペットのニオイが残る」(38.4%)。

③飼育者の62.8%が「ペット共生型賃貸」に住みたいと回答

✓飼育者のうち、実際に「ペット共生型賃貸」に住んでいる人は20.9%。

✓飼育者の46.1%、飼育意向者の83.7%が「ペット共生型賃貸」と「ペット可賃貸」の違いを理解していない。

✓「ペット共生型賃貸」と「ペット可賃貸」の違いを理解すると、飼育者の62.8%が、「ペット共生型賃貸」に住みたいと回答。

当社は、2002 年から公益社団法人 日本動物病院協会（JAHA）との提携を開始し、住まいにおける健康で快適なペット共生の暮らしに向けた設備・仕様・サービス等の拡充について監修を受けてきました。今回の調査結果を踏まえ、当社は、ペットの預かりサービスなど不在時の不安を軽減するサービスの整備や、「ペット共生型賃貸」のさらなる認知向上を目指し、ペットの飼育者はもちろん、物件オーナーにとっても提供価値が高い賃貸住宅の開発・供給を進めてまいります。

■今回の調査結果を受けた、公益社団法人 日本動物病院協会（JAHA）のコメント JAHA 理事・獣医師：吉田 尚子（よしだ なおこ）氏

「ペット共生型賃貸」と「ペット可賃貸」は、いずれもペットと共に生活できる物件ですが、その内容には大きな違いがあり、特に、設備・仕様、サービス、住人同士のコミュニケーション、規約の観点で「ペット共生型賃貸」には多くの利点があります。ペットを飼いたいと考える人々のニーズに応えるためには、物件オーナーや管理者がペット共生型の住環境を提供することが重要です。適切な対策を講じることで、ペットと人間が共に快適に暮らせる社会の実現に寄与できるでしょう。

【「ペット共生型賃貸」の利点】

1. ペットとの生活を前提に設計された専用の設備・仕様の充実

ペットの爪による傷や滑りを防ぐため、耐久性や滑りにくさを考慮した素材の床材・壁材が使用されています。また、ペット専用の足洗い場やグルーミングルーム、ドッグランなど、ペットのケアや運動のための共用施設が備わっていることが多いです。

2. ペットに関連する多様なサービスの提供

物件によっては、提携するペットシッターやトリミングサービスを紹介してくれる場合があります。また、住人同士の交流を促進するため、ペット関連のイベントやセミナーが開催されることがあります。

3. ペットを飼っている住人同士のコミュニケーションが生まれやすい

ペットに関する情報や悩みを共有できるコミュニティが形成されやすく、助け合いや交流が活発です。また、ドッグランやペット用ラウンジなどの共用スペースで、住人同士やペット同士の交流が促進されます。

4. ペットとの共生を前提とした明確な規約の設定

ペットの種類やサイズ、頭数の制限、共用スペースの利用方法など、具体的なルールが定められており、トラブルの予防につながります。また、万が一のトラブル時の対応方法や連絡先が明確にされており、安心して生活できます。

■公益社団法人 日本動物病院協会（JAHA）について



公益社団法人 日本動物病院協会（JAHA）は、人と動物の共生社会の実現に向けてペットの正しいしつけのあり方の啓発などを推進しています。

HP: <https://www.jaha.or.jp/>

■調査概要

調査対象： 首都圏(1都3県)在住の20歳～69歳の男女516人
(賃貸マンション/アパートに住む、犬/猫飼育者・飼育意向者)
調査期間： 2024年12月5日(木)～2024年12月6日(金)＜2日間＞
調査方法： インターネットリサーチ
調査委託先： マクロミル
調査主体： パナソニック ホームズ株式会社

■当社の「暮らし研究室」について

日々の家事の負担を軽くするには？もっと便利な収納とは？様々な側面から住まいと暮らしについて調査・研究を実施しています。世の中やライフスタイルの変化の兆しを読み取り、暮らしのアイデアをカタチにする活動を続け、より良い住まいの提案に繋げていきます。



「暮らし研究室」ホームページ

<https://homes.panasonic.com/kurashi-lab/>

◎「ペット共生スタイル」の詳細はこちら

<https://homes.panasonic.com/chintai/kurashi/pet-s.html>

※1 ペット保険大手のアニコム損害保険株式会社が販売するペット保険

※2 2024年11月、アニコムホールディングス株式会社調べ。https://www.anicom.co.jp/ir/pdf/20241108_supplementary_explanation.pdf

* 本件に関するお問い合わせ先 *

パナソニック ホームズ株式会社 宣伝・広報部 広報課 澗随(かんずい)

TEL:080-8544-4376 / E-mail:kanzui.naho@kk.panasonic-homes.com

HP: <https://homes.panasonic.com/company/news/release/>

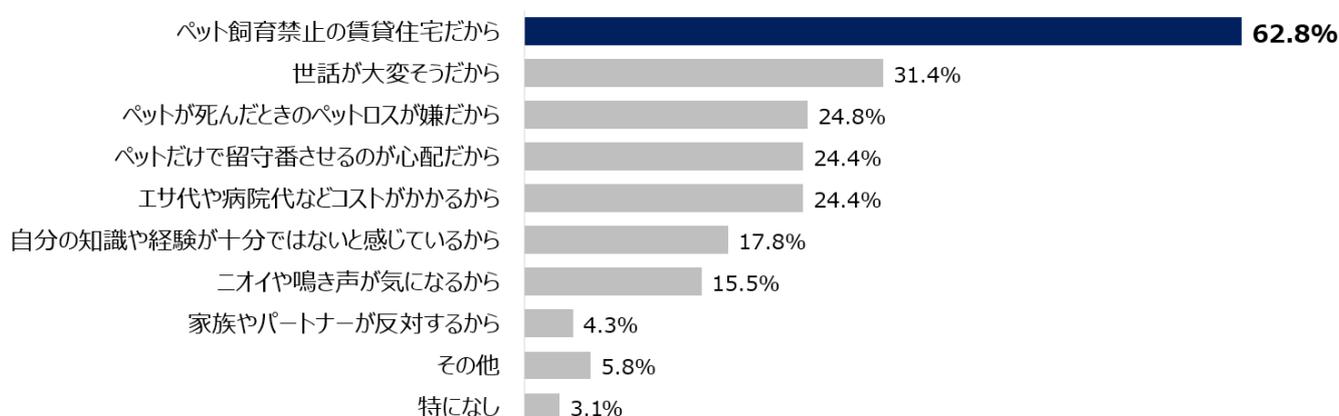
ご参考

■『賃貸住宅におけるペット飼育に関する意識調査』 結果詳細

① 飼育意向者の 62.8%が、飼育禁止を理由に賃貸住宅での飼育を断念

飼育意向者に、現在ペットを飼っていない理由を伺ったところ、62.8%が「ペット飼育禁止の賃貸住宅」であることを理由に、飼育できていないことがわかりました。(図 1)

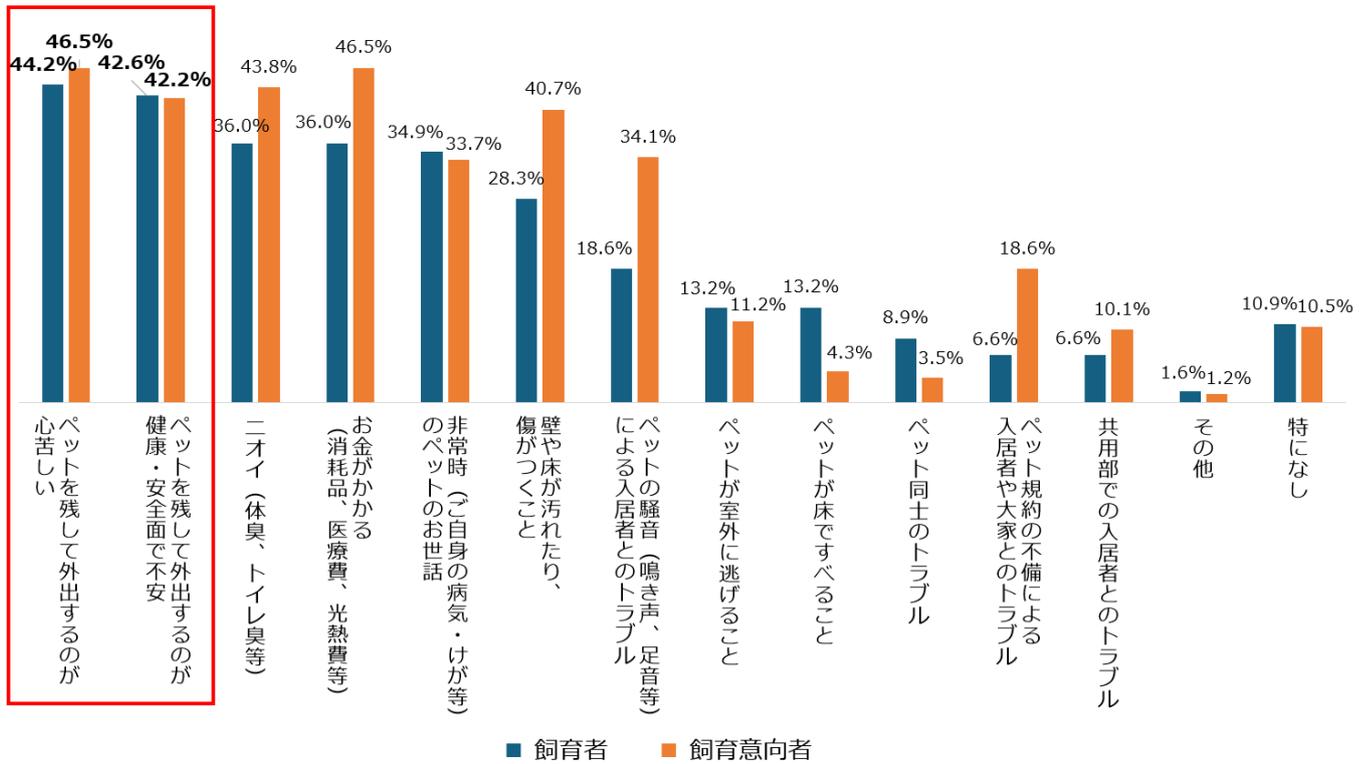
図 1 飼育意向者がペットを飼っていない理由(複数回答) n=258



② ペットとの暮らしに求められることは、「外出時の不安を減らすサービス」、「ペットに適したインテリア(床、壁等)やニオイ対策」

飼育者・飼育意向者にペットを飼育するうえでの困り事・不安を伺ったところ、最大の理由は飼育者・飼育意向者ともに「ペットを残して外出するのが心苦しい」こと(飼育者:44.2%、飼育意向者:46.5%)であることがわかりました。また、「ペットを残して外出するのが健康・安全面で不安」(飼育者:42.6%、飼育意向者:42.2%)という意見も多く、40.0%以上が、「心苦しさ」や「健康・安全面」でペットを残して外出することに困りごとや不安を感じていることがわかりました。(図 2)

図2 ペットを飼育するうえでの困りごとや不安なこと(複数回答) n=516



また、ペット飼育者に「ペットを飼えていること」と「飼う環境」の満足度を伺ったところ、95.0%が「ペットを飼えていること」には満足はしている一方で、そのうち 43.3%は「飼う環境」に不満を感じていることがわかりました。(図3,4)

図3 「ペットを飼えていること」の満足度(単一回答) n=258

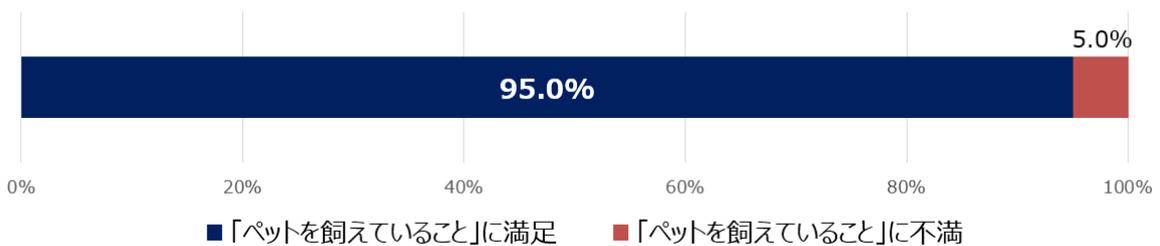
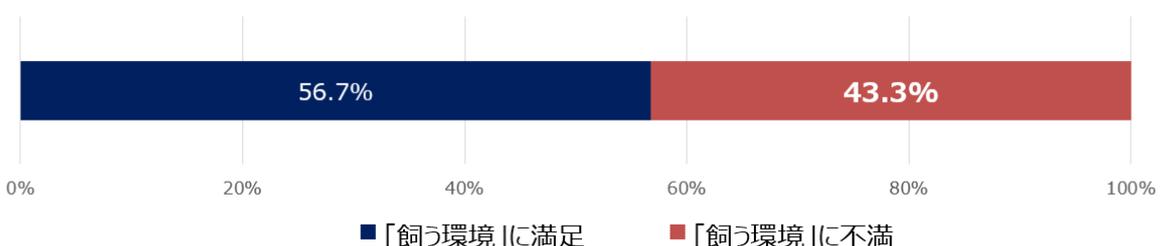


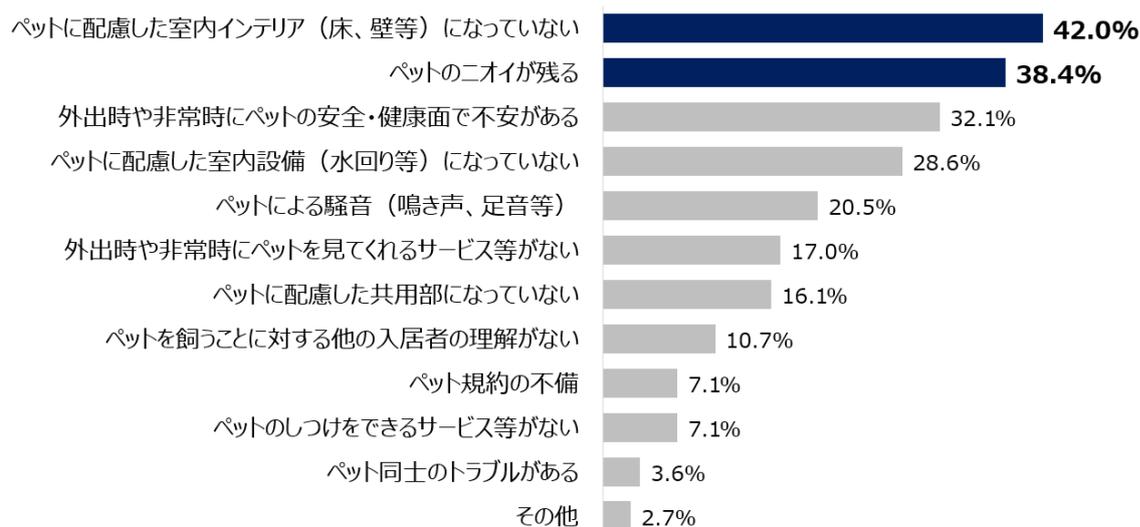
図4 「飼う環境」の満足度(単一回答)
(「ペットを飼えていること」に満足していると答えた人: n=245)



「飼う環境」に不満を感じている人にその理由を伺ったところ、「ペットに配慮した室内インテリア（床、壁等）になっていない」(42.0%)が最も多く、次いで「ペットのニオイが残る」(38.4%)が続き、ペット飼育に適した設備や仕様でない事が主な理由であることが伺えました。(図 5)

図 5 「飼う環境」に不満を感じている理由(複数回答)

(「飼う環境」に不満と答えた人:n=112)



実際に、飼う環境を不満に思う理由・原因を伺ったところ、犬を飼育している人は床の滑りやすさによるケガの心配、猫を飼育している人は排泄物のニオイが特徴として挙げられました。(図 6)

図 6 飼う環境を不満に思う理由・原因(自由回答)

犬飼育者

- ・部屋の床がフローリングで犬が移動する際に足を踏ん張れず、足腰を痛めそうな不安がある。(男性/55歳/千葉県)
- ・コンセントプラグが腰より低い位置にあり、万が一、好奇心で触ったりニオイを嗅いで感電したりということが起こり得ないかが心配。(女性/49歳/東京都)
- ・マンションの入り口などに足を洗う場所がない。(女性/44歳/神奈川県)

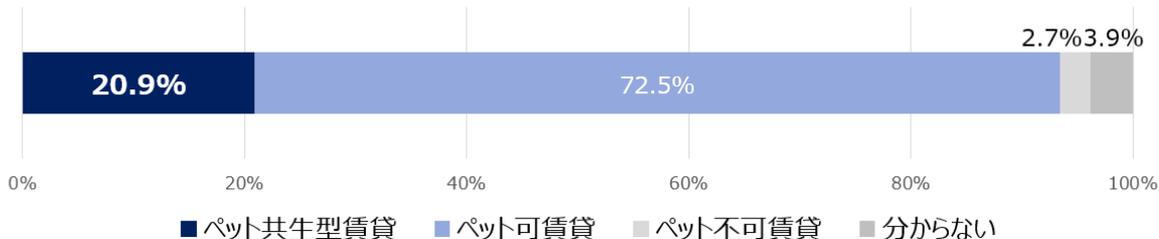
猫飼育者

- ・排泄物のニオイが気になる。(女性/54歳/東京都)
- ・猫が引っ掻いたりするので、壁がボロボロと落ちたり、ドアの塗装が剥がれたりして、それを猫が口にしてしまうことがある。(女性/40歳/神奈川県)
- ・キャットウォークを広く作るためのスペースがない。(男性/56歳/神奈川県)

③ 飼育者の 62.8%が「ペット共生型賃貸」に住みたいと回答

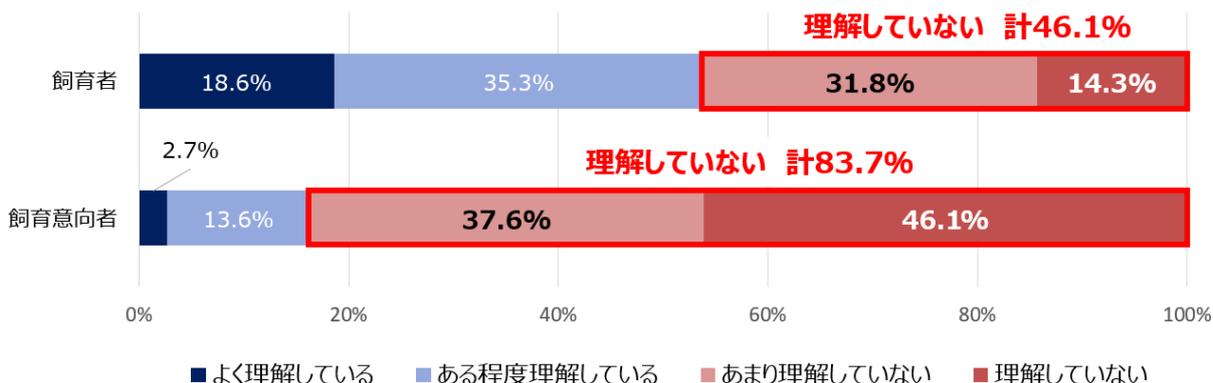
飼育者に現在の住まいのタイプを伺ったところ、「ペット可賃貸」に住んでいる人が 72.5%で最も多く、「ペット共生型賃貸」に住んでいる人は 20.9%でした。(図 7)

図 7 現在の住まいのタイプ(単一回答) n=258



また、飼育者と飼育意向者に、「ペット共生型賃貸」と「ペット可賃貸」の違いを理解しているか伺ったところ、飼育者の 46.1%、飼育意向者の 83.7%が「ペット共生型賃貸」と「ペット可賃貸」の違いを理解していないことがわかりました。(図 8)

図 8 「ペット共生型賃貸」と「ペット可賃貸」の違いの理解度(単一回答) n=516



飼育者に、「ペット共生型賃貸」と「ペット可賃貸」の違いを理解したうえでどちらの賃貸住宅に住みたいか伺ったところ、62.8%が「ペット共生型賃貸」に住みたいと回答したことから、「ペット共生型賃貸」のニーズが高いことがわかりました。(図 9)

図 9 「ペット共生型賃貸」と「ペット可賃貸」の違いを理解したうえで、どちらの賃貸住宅に住みたいか(単一回答) n=258

